

登録コード	ASN00500	開講年度	2026			
授業科目	環境共生学特論				担当教員	堤 大三
英文授業名	Advanced Lecture in Environmens and Symbiosis in Rural Districts				副担当	内川 義行・上原 三知・三木 敦朗・福山 泰治郎
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5 時限	対象学生
講義室	農学部 1 3 番講義室		授業形態	講義	備考	1年次生
信大コンピテンシー	非該当					
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】		
	2026ASカリ, 2025ASカリ, 2024ASカリ, 2023ASカリ					
	【専攻】より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術、倫理観を修得している。			様々な視点からの知識を習得し、環境共生のあり方を森林および中山間地域を対象とし、課題の抽出と解決方法を探求することができるようになる。		
授業の概要	・環境共生を探究する上で必要とされる要素として、防災および減災のための山岳域国土基盤整備、降雨・流出等の水循環と山地保全、中山間域における農業生産基盤整備と維持、経済学的視点からの農林業経営・資源管理、居住環境・景観形成および保全の5つを取り上げ、環境共生社会をめざした理論や実践的な技術のあり方について双方向的な議論を行い考究する。 ・さらに上記5つの要素が相互に関連し合っており、ある技術の施与が地域社会を構成する様々なモジュールに影響を及し伝播していくことを理解し、研究や技術を実地社会に適用させていくために必要な課題を導き出す能力を総合的に体得する。					
Contents:	1. Introduction 2. Present situation of natural disaster in rural districts 3. Detailed Exposition on debris flow 4. Water and sediment discharge in forested watershed 5. Issues on water and sediment discharge in forest 6. Land maintenance for agricultural use 7. Function of agricultural land maintenance 8. Methods of land maintenance 9. Forest management in rural districts 10. Forest management and its structure 11. Forest resources management under world economy 12. Landscape design and conservation of residence area environment 13. Landscape design and natural preservation 14. Landscape design and its conservation 15. Discussion					
授業計画	第1回：【座学】本講義の目的と概要説明（担当 堤大三） 第2回：【座学】中山間地域で発生する土砂災害の現状（担当 堤大三） 第3回：【双方向】土砂災害対策の種類と課題（担当 堤大三） 第4回：【座学】山地森林流域における降水と水・土砂流出（担当 福山泰治郎） 第5回：【双方向】森林と水・土砂流出に関する課題：グループディスカッション（担当 福山泰治郎） 第6回：【座学・実務家】中山間地域の農業生産基盤の現状（担当 内川義行） 第7回：【双方向・実務家】中山間地域の農業生産基盤の新たな活用（担当 内川義行） 第8回：【双方向】中山間地域の農業生産基盤における維持管理（担当 内川義行） 第9回：【座学】中山間地域の森林所有・林業（農民的林業）経営（担当 三木敦朗） 第10回：【双方向】森林所有・林業経営に関する理論と林業構造（担当 三木敦朗） 第11回：【双方向】グローバル経済下における地域農林資源管理（担当 三木敦朗） 第12回：【座学】ランドスケープデザインと居住環境保全（担当 上原三知） 第13回：【双方向】ランドスケープデザインと自然保護（担当 上原三知） 第14回：【双方向】ランドスケープデザインと景観保全（担当 上原三知） 第15回：【座学】環境共生 - 中山間地域管理のあり方 - を考える、授業アンケート（担当 堤大三）					
成績評価の方法	各講義において小テストまたは小レポートを行い、これに基づき成績評価を行います。					
成績評価の基準	中山間において派生している様々な課題を理解できていれば「水準にある」、課題解決のための考察ができていれば「やや上にある」、さらに課題解決のための具体案を提示できていれば「かなり上にある」、課題が解決と研究との関係性を考察できていれば「卓越している」。					
事前事後学習の内容	講義資料を活用し、講義後においてノートの整理を行ってください。					
履修上の注意	複数の教員が担当しますので、内容の変更等があるばあいは、それぞれの教員から通知されます。本講義は対面とオンデマンドのハイブリッド形式で実施します。詳細は初回の講義にて説明します。					
質問,相談への対応	下記のメールにて質問を受け付けます。 堤 大三：t_daizo@shinshu-u.ac.jp 内川義行：yuchi@shinshu-u.ac.jp 三木敦朗：mikia26@shinshu-u.ac.jp 上原三知：ueharam@shinshu-u.ac.jp 福山泰治郎：tjrfkym@shinshu-u.ac.jp					
学生へのメッセージ	総合的な視野を持つことが重要です。授業計画を参照し、関連するであろう情報を自ら収集し、講義に望むようにしてください。					

【教科書】	特になし。必要に応じてプリント資料等を配付します。
【参考書】	特になし。